



当サイトはこちらよりご覧になれます。

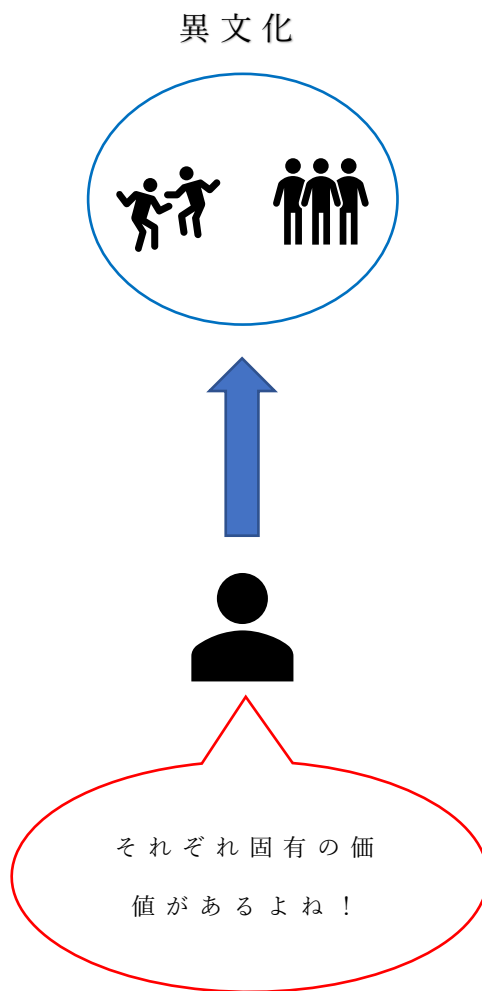
©学習 PROJECT

★比較文化論

— 比べて分かる文化の違い —

比較文化論は評論の重要テーマのひとつです。文化を比較することで、文化を**相対化**できるからです。我々は「絶対に自分の文化が正しい！あの国の考え方は間違っているー！」とすぐに決めつけず、他の文化に対して深い考察ができるようにならなくてはなりません。

ついつい他国の理解できない面を目の当たりにして、「あの国は危険だ」などと決めつけていませんか？その姿勢は、**グローバリゼーション**の時代にはふさわしくありません。現代では、**自文化中心主義**（エスノセントリズム）に陥らず、**文化相対主義**の立場をもつことが求められています。



◎ 評論 キーワード

- ・ **相対化**：ある物事を他と比較してとらえること。
- ・ **グローバリゼーション**：文化などが地球規模で一体化すること。
- ・ **自文化中心主義**：自分たちの文化こそ価値を持ち至高のものとする考え。
- ・ **文化相対主義**：すべての文化に固有の価値を認める考え。

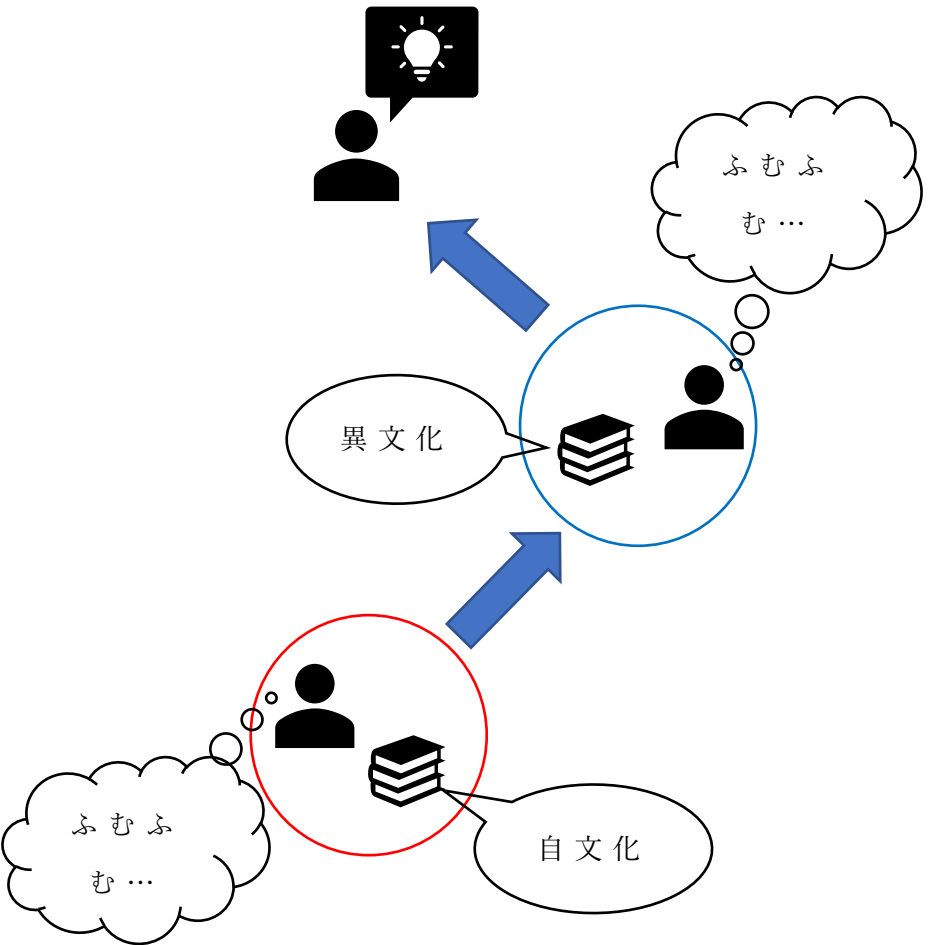
ところで、そもそも「文化」とは何でしょうか？ **文化**とは、人類の理想を表現していく精神の活動のことです。

例えば、学問や信仰、芸術、道徳などがそうです。さらにそれらを具現化したものを**文明**といいます。イメージは、無形のもの文化、有形のものは文明といった感じでしょう。こうした文化や文明について知っておくことは大変重要です。

もちろん、他国の文化を知ることが重要ですが、まずはしっかりと自国の文化を知りましょう。

こんな話があります。国際関係の仕事に興味のあったAさんは、将来は海外で活躍したいと思っていました。そのため一生懸命に英語や世界史の勉強をしました。そして夢を叶え、海外で活躍する機会が与えられたAさんは、現地です。次のように訊かれました。「あなたの国の文化はどのようなものですか？」と。Aさんは何も答えられません。当然です。Aさんは自国の文化については何も学んでいなかったのですから。

この例から分かるとおり、真の国際人とは、自国の文化をまずはしっかりと学んできた人のことを指します。その上で、他国の文化を学び、自国の文化を相対化していくのです。



なぜ、比較文化が重要になったのでしょうか？その背景を少し説明しましょう。

「西洋中心主義」という言葉があります。ヨーロッパにおける自文化中心主義のことですが、西洋を優位・中心的なものと考え、日本を含む東洋を劣位・周縁に置く考え方が近代以降に一般的になりました。サイドという人は、そうした見方で東洋をみることを「オリエンタリズム」と呼んで批判しました。

例えば、日本では切腹の文化がありました。これは当時の日本人にとってひとつの重要な文化でした。しかし、西洋人はそれを野蛮なものとして眺めていたわけです。東洋は野蛮で奇異なもの—こうした視点で東洋を眺める態度をサイドは戒めたのです。

これは現代の日本人が、昔の日本人の文化を考えるとときにも当てはまるのではないのでしょうか？昔の日本人は野蛮で、現代の我々の方が優れていると考えがちではないのでしょうか？

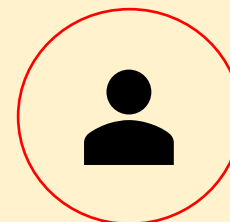
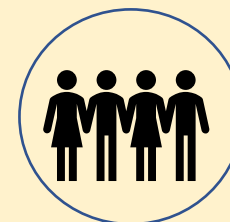
たしかに現代人の方が優れている面もあるでしょう。しかし、昔の人々の方が優れていた面も実際には多いですし、そこから学ぶこともたくさんあります。比較文化を通して自身の凝り固まった物の見方をほぐしてあげることができるのです。

◎ 評論 キーワード

- ・ 文化… 人類の理想を実現していく精神の活動。
- ・ 文明… 技術や社会整備の発達による物質的な所産。
- ・ 西洋中心主義… 西洋文明を格別なものともみなす考え。
- ・ 周縁… まわり。「中心」の対義語。
- ・ オリエンタリズム… 西洋人が東洋を奇異の目で見ること。

★比較文化論 へまとめ

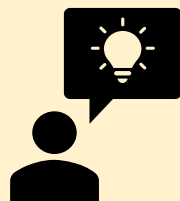
●自分の文化が絶対正しいとは限らない！



「違う」だけ。優劣はない。

●自文化と異文化を比較して初めて文化が分かる！

文化の深い理解



自文化



異文化